

不登校児童生徒の 現状に関する資料

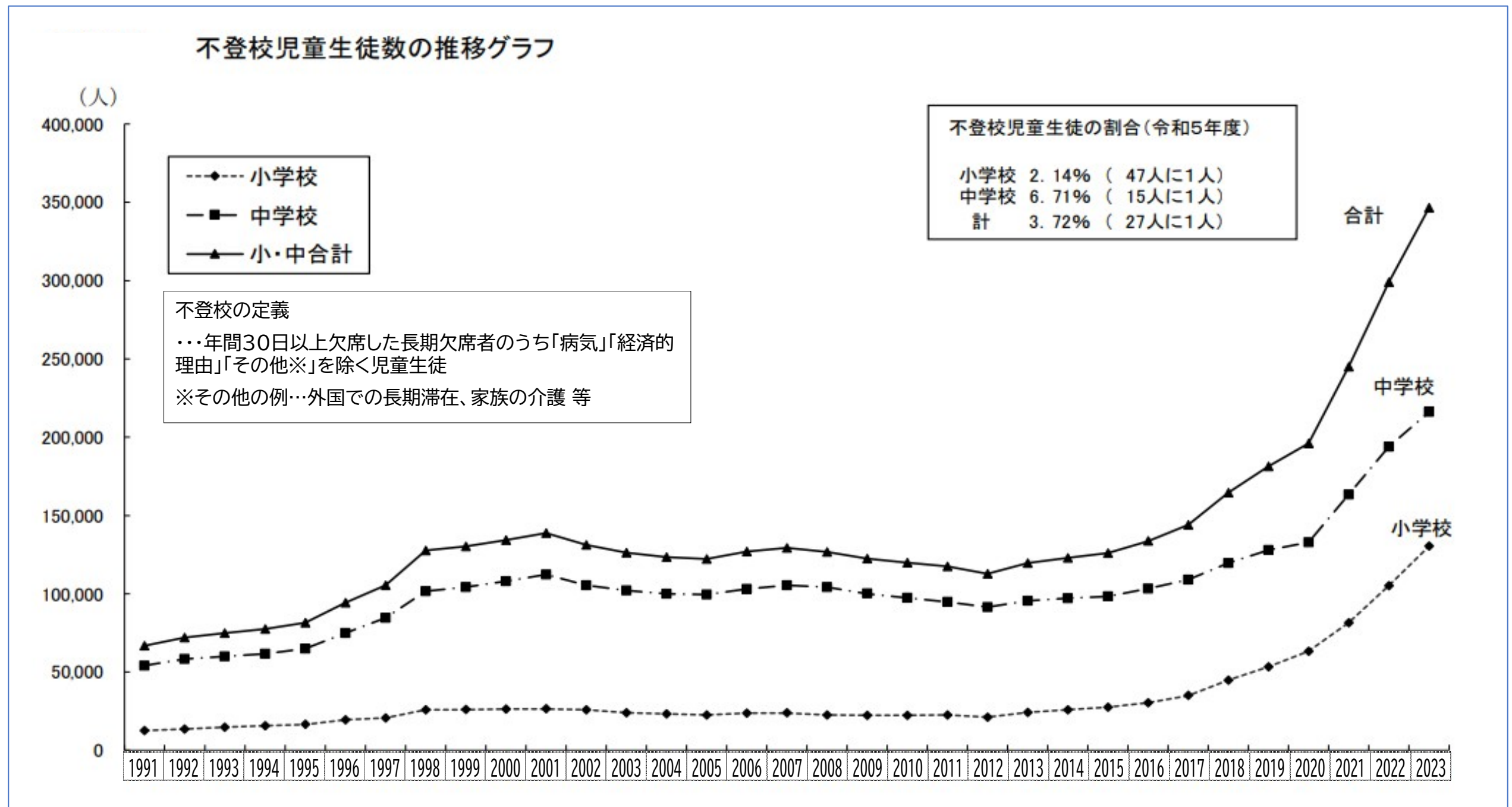
総合教育会議

令和7年8月29日(金)

全国の不登校児童生徒数の推移

教育委員会

- ・全国的な不登校児童生徒数は、1990年代後半に増加し、1998年から、15年間程度にわたり微増減を繰り返していた。
- ・2021年度からコロナ禍の影響により、毎年、大幅に増加している。
- ・コロナ禍以前も、2014年以降は増加の傾向を示していた。

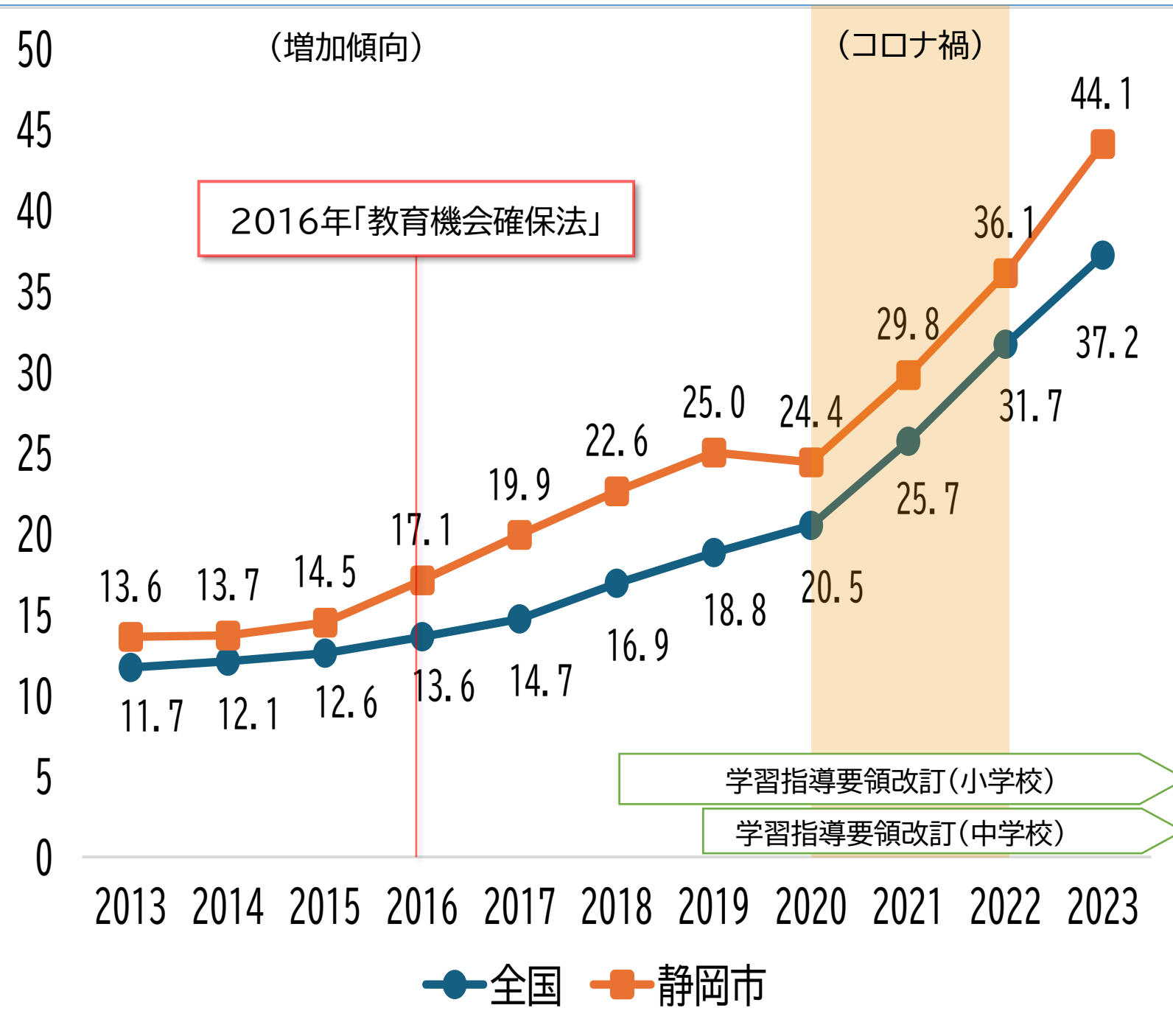


静岡市と全国の不登校児童生徒数の推移の比較

教育委員会

・不登校児童生徒数は、コロナ禍によって大幅に拡大したが、2014年度以降、全国的に同様の傾向で増加しており、不登校の増加は、社会的な背景が影響した社会全体の課題として捉える必要がある。

児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数の推移



- ・全国と同様に2014年以降、増加傾向を示している
- ・1000人あたりの不登校児童生徒数は、全国水準より高い数値を示している

※ただし、長期欠席者を不登校としてカウントするかどうかの判断は、市町により誤差があるため、実数よりも増加の傾きに注目する

・増加に転じた2014年度以降からコロナ禍以前までは、全国増加率よりもやや高い増加率であったが、コロナ禍以降、およそ全国と同様の傾向で増加している。

2016年「教育機会確保法」(義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律)

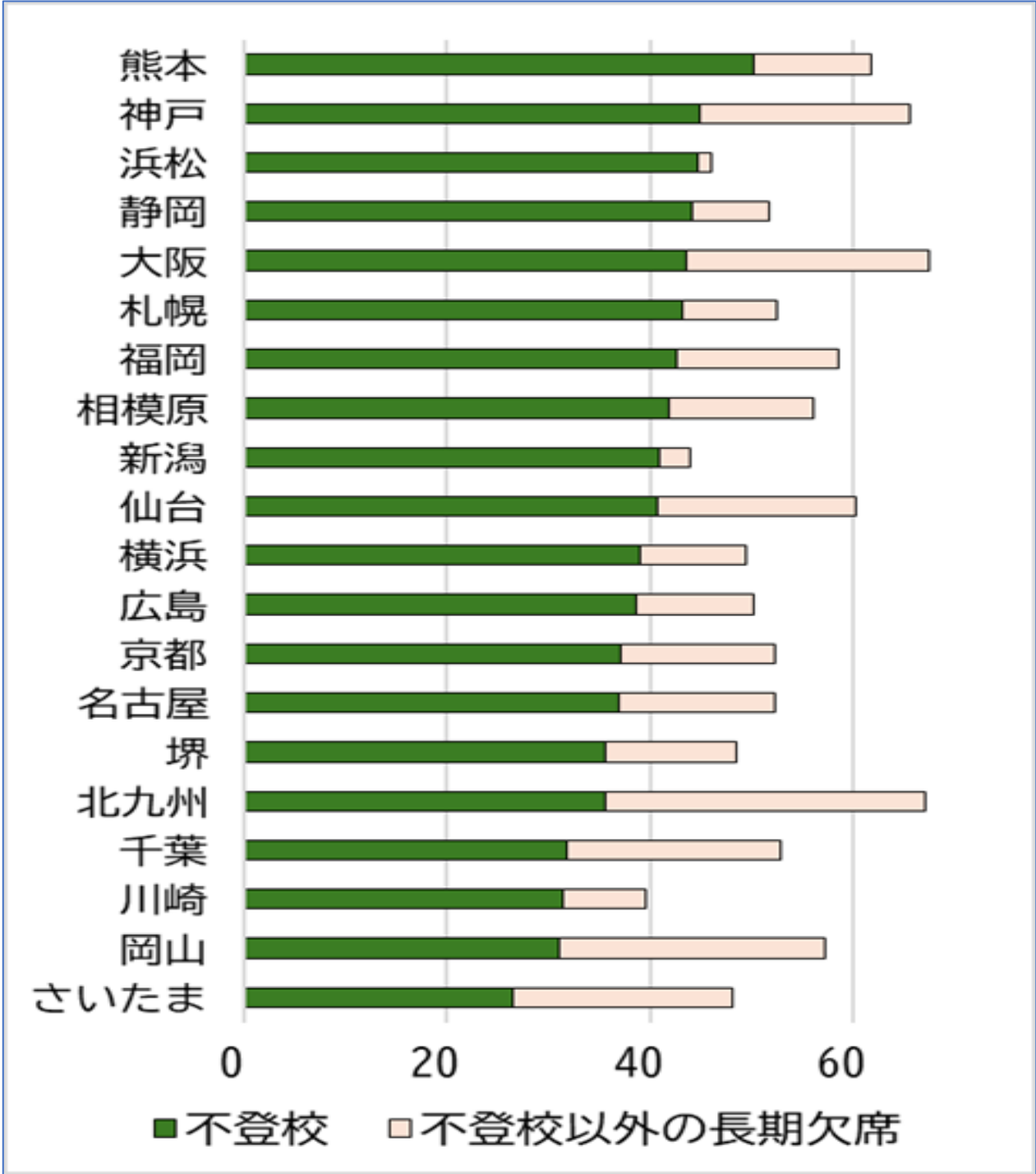
魅力あるよりよい学校づくりは継続するも、不登校は誰にでも起こりうることであり、単に登校するという結果のみを目標とせず、児童・生徒の社会的な自立を目指し、不登校児童生徒等に対する教育機会を確保することに努めること

(※2020年に静岡市の指標が一旦減少しているのは、コロナ禍による学校閉鎖等の影響で登校日数が少なかったことや学校閉鎖時以外も「コロナ感染症の回避を理由とした長期欠席」を不登校にカウントしないことなどの理由による。)

(文部科学省 令和5年度問題行動等調査)

2023年度静岡市と他の政令指定都市との比較

2023年度1,000人当たりの不登校児童生徒と長期欠席者数(政令市比較)



不登校の定義
・・・年間30日以上欠席した長期欠席者のうち「病気」「経済的理由」「その他※」を除く児童生徒
※その他の例・・・外国での長期滞在、家族の介護 等

・1,000人当たりの不登校児童生徒数は約44.1人で、政令指定都市の中で4番目に多い

・1,000人当たりの長期欠席者数は、政令指定都市の中で13番目

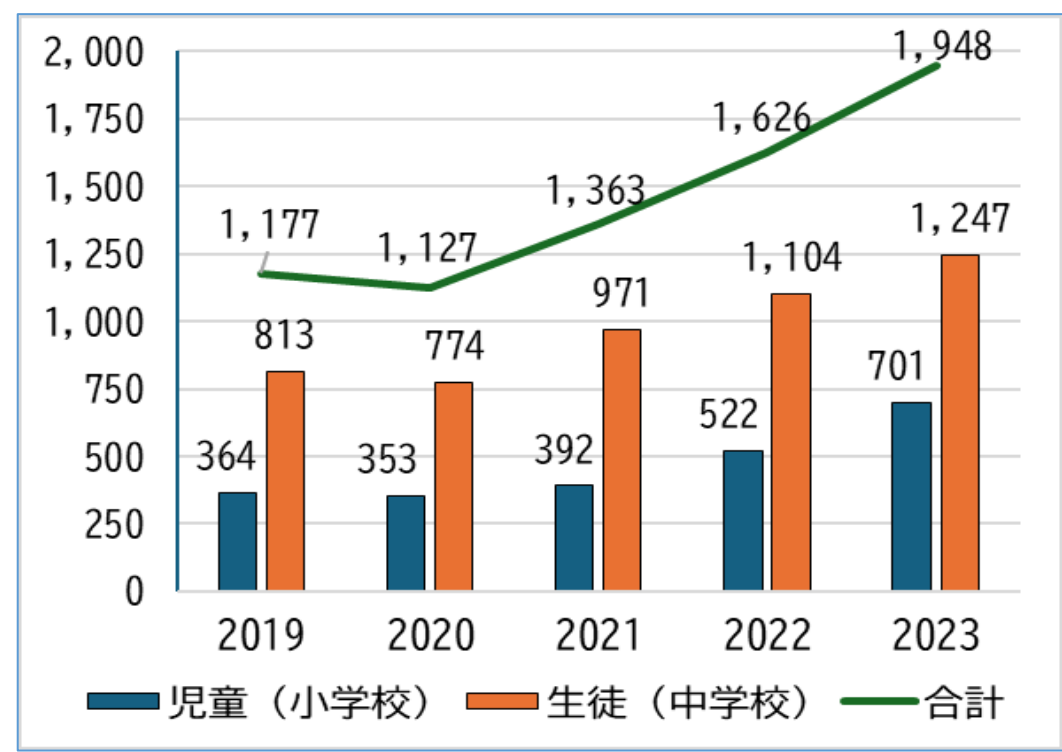
・静岡県内は、例えば、体調不良を理由に長期間欠席する児童生徒について、「病気」ではなく「不登校」としてカウントするなど、長期欠席者における不登校児童生徒の割合が高い

静岡市の不登校児童生徒数

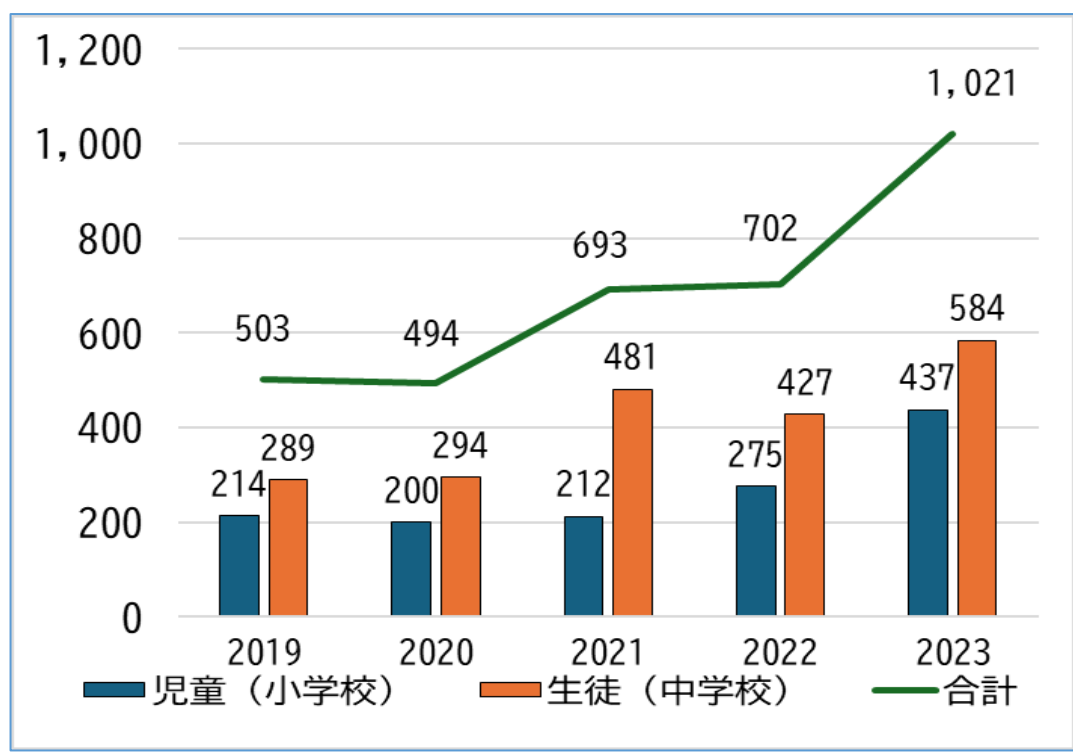
教育委員会

- ・ 2023年度は、中学生の不登校者数が全体の8.6%で、通常の35人学級に換算すると約3人は不登校という現状
- ・ 2023年度は、小学生の新規の不登校者数が、前年度と比較し、およそ1.6倍増加した

① 静岡市の不登校児童生徒数の推移



② 静岡市の新規不登校児童生徒数の推移



③ 5年間の不登校児童数(小学生)

	全児童数	不登校児童数	不登校児童の割合	不登校児童の内、新規
2019	32,212	364	1.1%	58.8%
2020	31,518	353	1.1%	56.6%
2021	31,111	392	1.3%	54.1%
2022	30,526	522	1.7%	52.7%
2023	30,511	701	2.3%	62.3%

④ 5年間の不登校生徒数(中学生)

	全生徒数	不登校生徒数	不登校生徒の割合	不登校生徒の内、新規
2019	14,836	813	5.5%	35.5%
2020	14,576	774	5.3%	38.0%
2021	14,690	971	6.6%	49.5%
2022	14,565	1,104	7.6%	38.7%
2023	14,566	1,247	8.6%	46.8%

不登校児童生徒、学年別、出席日数別

教育委員会

(2023年度)

	小学校						中学校					
欠席日数	30-50	50-90	90以上	出席10以下	出席0	合計	30-50	50-90	90以上	出席10以下	出席0	合計
1年	26	21	10	1	0	58	88	81	148	23	9	349
2年	35	21	21	4	2	83	101	82	215	46	23	467
3年	28	29	26	2	0	85	80	47	231	58	15	431
4年	36	29	46	3	0	114						
5年	52	51	61	3	10	177						
6年	45	51	69	8	11	184						
計	222	202	233	21	23	701	269	210	594	127	47	1,247
	31.7%	28.8%	33.2%	3.0%	3.3%		21.6%	16.8%	47.6%	10.2%	3.8%	

※2023年度から、調査項目に、欠席日数が50日から90日という項目が加わったため、表の欠席日数の区分が過去2年間と異なる

・中学校では、「90日以上欠席」「出席日数が10日以下」「出席が0」合わせると、60%以上で、小学校に比べ、不登校が長期化する傾向にある

(2022年度)

	小学校						中学校					
欠席日数	30-90	—	90以上	出席10以下	出席0	合計	30-90	—	90以上	出席10以下	出席0	合計
1年	17	—	10	0	0	27	135	—	149	23	5	312
2年	16	—	13	2	0	31	112	—	224	46	26	408
3年	38	—	21	2	0	61	120	—	177	74	13	384
4年	49	—	30	7	3	89						
5年	63	—	52	5	7	127						
6年	94	—	76	13	4	187						
計	277	—	202	29	14	522	367	—	550	143	44	1,104
	53.1%	—	38.7%	5.6%	2.7%		33.2%	—	49.8%	13.0%	4.0%	

・基本的には、学年があがると不登校児童生徒数は増加するが、進路選択が迫られる中学3年生になり登校を再開するケースもある

・かつては、ほぼいなかった小学1、2年生の不登校児童が3年間で大幅に増加している

(2021年度)

	小学校						中学校					
欠席日数	30-90	—	90以上	出席10以下	出席0	合計	30-90	—	90以上	出席10以下	出席0	合計
1年	9	—	3	0	0	12	144	—	129	19	6	298
2年	23	—	11	3	0	37	130	—	148	34	20	332
3年	24	—	11	4	3	42	106	—	169	47	19	341
4年	43	—	22	4	2	71						
5年	58	—	43	6	5	112						
6年	61	—	49	6	2	118						
計	218	—	139	23	12	392	380	—	446	100	45	971
	55.6%	—	35.5%	5.9%	3.1%		39.1%	—	45.9%	10.3%	4.6%	

【表の欠席日数の区分】

30-50・・・年間の欠席日数が30日より多く50日未満

50-90・・・年間の欠席日数が50日より多く90日未満

30-90・・・年間の欠席日数が30日より多く90日未満

90以上・・・年間の欠席日数が90日以上の児童生徒のうち、出席日数が10日以下の児童生徒を除く

出席10以下・・・年間の出席日数が10日以下

出席0・・・年間の出席日数が0日

中学校卒業後の進路

- ・2024年度中学3年生の不登校の生徒の60%は、通信制の高校に進学している。
- ・通信制といっても、全ての単位をオンラインで取得することはできず、対面指導(スクーリングといわれる)が必須であり、市内に対面指導の会場を設けている通信制高等学校も増加している。また、通信制の高校は、自分で学習計画を立て、進捗を管理し単位を取得する必要があるため、これをサポートするサポート校と呼ばれる教育施設を利用する生徒が多い。
- ・不登校生徒に限らず、今後、中学生の選択肢の一つとして通信制高校を選択する生徒が増える可能性があるが、不登校生徒は、調査書において、欠席や遅刻の回数が多く、学習面においては、評価・評定(成績)が低くなり、全日制・定時制の入学者選抜においてマイナスの要素となるため、通信制高校がその受け皿となっている。
- ・近年、中学校が、進学する高校に提出する調査書(内申書)の欠席日数欄を廃止する県も現れている。
(東京都、岐阜県、長野県など、愛知県、千葉県、新潟県、埼玉県は、今後の廃止が決定している。)

2024年度 不登校生徒の卒業後の進路

進路	人数 (人)	割合 (%)
全日制	35	7.9
定時制	70	15.8
通信制	268	60.7
その他進学	35	7.9
進学以外	34	7.7
合計 (※中3不登校者数)	442	

2024年度 中学校卒業後の進路 (全体) (不登校生徒含む)

進路	人数 (人)	割合 (%)
全日制	3,997	82.6
定時制	126	2.6
通信制	420	8.7
その他進学	260	5.4
進学以外	36	0.7
合計 (卒業生数)	4,839	

※2024年度の中3不登校者数は速報値

フリースクール等民間施設について

教育委員会

- ・2024年度、市内の児童生徒が利用した学校外のフリースクール等民間施設は、61施設で市内59施設、市外2施設であった。
- ・市内の59施設のうち、約半数の28施設は、放課後等デイサービスであった。放課後のみならず日中に児童生徒を受入れる施設もある。放課後等デイサービスの利用には、障がい者手帳は必須ではないが、医療機関での診断等などにより障害サービスの需給の認定を受ける必要がある。(令和6年度の障害福祉サービス等報酬改定により、不登校の状態にある障害児に対し、学校・家庭と連携を図りながら支援を行った場合に評価する加算が創設された。)
- ・61施設のうち、施設の利用が在籍校での出席扱いとなった児童生徒が通所した施設が17施設あった。学校外施設での活動を出席扱いとするかどうかの判断は、学校長に委ねられており、学校長は、国の通知を基に、施設、保護者と緊密な連携を取り判断する。
- ・利用人数は、小中合わせて157人で、そのうち在籍校において出席扱いとされた児童生徒は31人、全体で19.7%

【2024年度の長期欠席者の調べ(不登校等の調べ)に合わせて調査した、各学校において児童生徒が通所しているフリースクール等民間施設の数】

施設数	うち、 市内施設	うち、 放課後等デイサービス	施設の利用が在籍校での 出席扱いとなった児童生徒 が通所した施設
61	59	28	17

(各学校調べ)

【2024年度のフリースクール等民間施設の利用者数および施設での活動が在籍校で出席扱いとなった人数と割合】

	小学生	中学生	合計
フリースクール等民間施設 利用人数(人)	75	82	157
うち、 施設での活動が在籍校で 出席扱いとなった人数(人)	12	19	31
出席扱いとなった割合	16%	23%	19.7%

(各学校調べ)

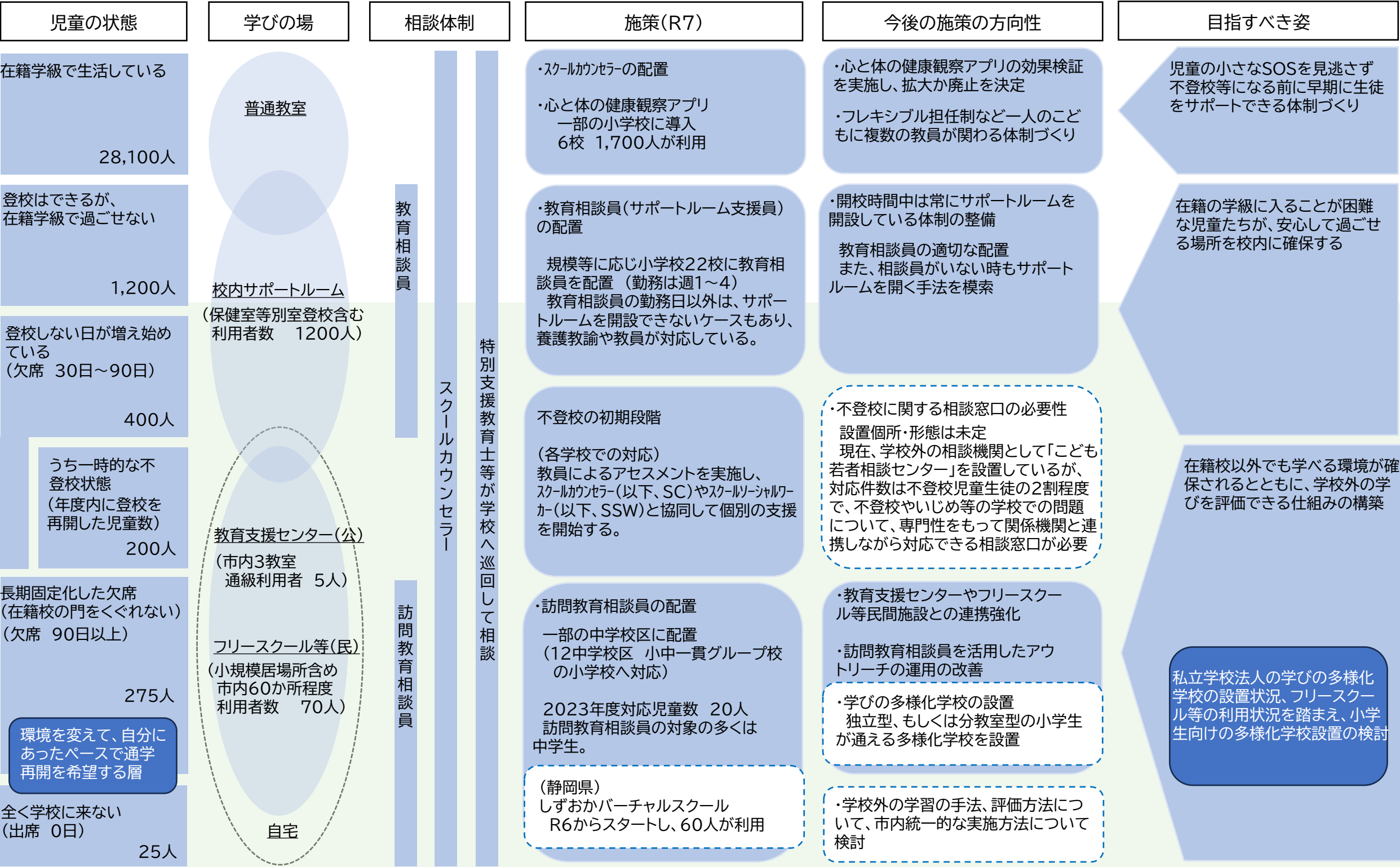
静岡市の不登校児童生徒への取組（小学校）

市内小学校 75校 児童数 約30,000人

注：最左欄の児童数は、状態の変化により流動的であるため、2023年度の実績をベースとしてそれぞれのボリュームを示す数値であり実数ではない。

現在の取組

※不登校児童数 およそ 700人



静岡市の不登校児童生徒への取組（中学校）

市内中学校 43校 生徒数 約14,500人

注:最左欄の生徒数は、状態の変化により流動的であるため、2023年度の実績をベースとしてそれぞれのボリュームを示す数値であり実数ではない。

現在の取組

※不登校生徒数 およそ 1,300人

